

いじめに無関心で いられない人たちへ

いじめがもたらすダメージはとても大きく、根深いです。そして当事者だけでなく、時間や空間を共にする周りの人たちにも、強いダメージを与えます。だからこそ、いじめを止めたいと思う反面、行動することで被害が悪化したら、さらには自分に被害が生じたらと、躊躇してしまいます。

いじめを前にしたとき、私たちはいったい何ができるのでしょうか。本講演では、発達心理学を専門とし、思春期に非行やいじめ、不登校やひきこもりといった問題が生じる謎について研究されてきた加藤弘通氏を話し手に、社会的マイノリティとされる人たちの悩み・苦しみを、記者として代弁されてきた泉優紀子氏が質問を投げかけます。この対話を通じて、思春期という発達過程でのいじめの特徴と、いじめが深刻化する前に私たち一人ひとりができることを、皆様と一緒に探ってゆきたい思います。

オンラインでも同時配信します。

参加者(来場、オンライン)の事前予約を行います
(申込期間:9月2日(月)~19日(木)17時)。
当日参加も受け付けます。

**日時**

2024年**9月28日** **土**
14:00~16:00

会場

人文・社会科学総合教育研究棟
W103教室

定員

200人(事前予約+当日受付)



講演・登壇者紹介

話し手 加藤 弘通 氏

(北海道大学大学院教育学研究院 准教授)



2013年、北海道大学大学院教育学研究院に着任。専門領域は発達心理学。思春期、問題行動、いじめ、自尊感情、学級の荒れ、規範意識、といったキーワードで示される調査研究を広く実施している。著書に『子どもの発達が気になったらはじめに読む発達心理・発達相談の本』(加藤弘通・岡田智共著、ナツメ社、2019年)など、多数。北海道新聞に連載中の、小中高生とその保護者に向けた『悩みごとナビ』の執筆者としても活躍。

聞き手 泉 優紀子 氏

(HBC北海道放送 記者 2018年度教育学院修士課程修了)



2019年、北海道放送株式会社に入社。以来、報道部に所属し、現在は札幌市政キャップ。五輪招致など市政取材に向き合う傍ら、教育・福祉・医療に高い関心を寄せ、セクシャルマイノリティなどのテーマも取材。2023年に、ドキュメンタリー『性別は誰が決めるか〜「心の生」をみつめて』で、過去1年間の放送の中から優れたテレビ、ラジオ番組等に贈られる、第49回放送文化基金賞ドキュメンタリー部門で最優秀賞を受賞。